

三
島
の
教
育

令
和
2
年
度

三
島
市
教
育
委
員
会

三島の教育

令和2年度

(2020年度)

三島市教育委員会

ま え が き

昨今、新型コロナウイルス感染拡大防止のための社会生活への影響は大きく、新しい生活様式を取り入れた従来と異なる視点による行動が求められており、教育現場においても、既存の常識に捉われず、柔軟に対応していくことが求められております。

三島市教育委員会としましては、このような状況下においても、学校教育の現場で学ぶ子ども達や、市民の学びの意欲に対し、学習の機会を継続して、確保・提供していくための施策を展開していく必要性を感じております。

学校教育においては、「三島市学校教育振興基本計画」に基づき、「心の教育」を柱とし、昨今の教育課題を解消するために、「確かな学力の育成」、「生徒指導や特別支援教育の充実」、「健やかな体の育成」、「命を守る学校環境づくり」を重点として取り組んでいます。特に、「確かな学力の育成」の分野において、これまで継続して分析してきた三島の子どもたちの学力や学習状況をもとに、よい点をさらに伸ばすとともに課題を解決すべく方策を探っていきます。また、小学校では今年度から、中学校では来年度から完全実施となる新学習指導要領に基づき、道徳科教育、外国語教育、プログラミング教育等の一層の充実を図ります。さらに、GIGA スクール構想による一人一台端末 整備を見据え、多様な子どもたち一人一人に対し、個別最適化された学びが実現できるよう、ICT 機器をより効果的に活用した研究や実践を重ねていきます。

学校施設については、子どもたちが一日の大半を過ごす活動の場であり、また、非常災害時には地域住民の応急避難場所として、その安全性の確保は極めて重要なことから、毎年設備の点検を行い、老朽化が見られる箇所の補修整備を行っております。今年度は、外壁落下の防止、雨漏り防止のため、中学校2校の外壁の塗装と屋上防水の改修工事を行うほか、老朽化が進んでいる学校のトイレ改修工事を、小学校4校、中学校1校の計5校行います。また、コロナ禍においても、誰一人取り残さず、子ども達が継続して学習できる環境を整備していくため、政府が掲げるGIGAスクール構想に沿って、一人一台端末の早急な配備を進め、電子黒板等と連携した、授業の一層のICT化や、自宅でも学習できるオンライン教育の環境整備等、新たな教育手段の構築を進めるとともに、子ども達が安全に学校生活を送るための設備等の充実を図って参ります。

生涯学習に関しては、「三島市生涯学習推進プラン」に基づいた総合的な生涯学習の推進を図ります。また、地域ぐるみでの青少年育成のため、特に学校、家庭及び地域の連携協力推進事業に力を入れ、地域の皆さんに学校支援ボランティアとして活動していただく地域学校協働本部事業を市内全公立小中学校で実施するほか家庭教育支援事業を積極的に実施していきます。

文化財については、文化財愛護の精神を高め、郷土への愛着や地域文化への誇りを醸成するため、市民・ボランティア団体をはじめ、様々な文化財所有者と連携・協働し、文化財保護法・博物館法に基づく保護と活用を計画的に推進していきます。

図書館では、子どもたちが本に親しむ習慣を身につけられるよう、平成29年3月に改訂した「第2次三島市子ども読書活動推進計画」に基づき事業を進めておりますが、令和3年度には、「第3次三島市子ども読書活動推進計画」の策定を予定しており、その準備として「子ども読書活動に関するアンケート調査」を実施してまいります。

このような多角的な取り組みを進めていくため、教育委員会と市長部局との連携をはじめ、総合教育会議や、教育の未来会議、地域との協働の一層の推進等により、開かれた教育委員会を目指すとともに、シビックプライド醸成の一翼を担っていけるよう、教育行政の推進に取り組んでまいります。

ここに、関係各位のさらなるご理解、ご協力をいただけますよう、この小冊子を取りまとめましたので、ご教示とご鞭撻を賜れば幸いに存じます。

令和2年9月

三島市教育委員会 教育長 西島玉枝

目 次

I. 市政のあらまし

1. 位置・地勢・人口…………… 1
2. 沿革…………… 1
3. 財政…………… 2

II. 教育に関する大綱

1. 三島市学校教育振興基本計画…………… 3
2. 三島市生涯学習推進プラン…………… 3
3. 三島市文化振興基本計画…………… 4
4. 三島市子ども・子育て支援事業計画…………… 4

III. 教育委員会

1. 教育長及び教育委員…………… 5
2. 教育委員会所管組織一覧…………… 5
3. 令和元年度教育委員会及び
総合教育会議議題…………… 6
4. 事務分掌…………… 7

IV. 教育財政

1. 令和2年度教育費予算（当初）…………… 9
2. 年度別教育費の推移（当初予算）…………… 10
3. 年度別教育費の執行状況…………… 11
4. 園児・児童・生徒の人口に占める割合…………… 12
5. 園児・児童・生徒1人当たり及び
人口・世帯割の教育費…………… 13

V. 教育施設

1. 学校要覧…………… 14
 - (1) 小学校…………… 14
 - (2) 中学校…………… 14
 - (3) 幼稚園…………… 14
2. 学校施設…………… 16
 - (1) 小学校…………… 16
 - (2) 中学校…………… 16
 - (3) 幼稚園…………… 16
3. その他教育関連施設…………… 18
4. 令和元年度の学校施設の整備・補修等…………… 18
5. 令和2年度の学校施設の整備・補修等…………… 19

VI. 学校教育

1. 令和2年度三島市の学校教育…………… 20
2. 遠藤奨学金について…………… 23
3. 令和元年度就学免除・猶予・死亡児童生徒数…………… 24
4. 令和元年度転入・転出児童生徒数…………… 24
5. 令和元年度中学校卒業生の進路…………… 24
6. 令和元年度就学奨励援助…………… 25
7. 令和元年度日本スポーツ振興センター掛け金
及び給付金…………… 25
8. 学校給食…………… 26

VII. 社会教育（生涯学習）

1. 社会教育施策の重点…………… 28
2. 委員会・団体の構成…………… 28
3. 令和元年度の重点事業…………… 29
4. 生涯学習事業…………… 29
5. 生涯学習推進事業…………… 29
6. 家庭教育事業…………… 30
7. 成人教育事業…………… 31
8. 女性団体支援事業…………… 31
9. 青少年対策事業…………… 31
10. 青少年教育事業…………… 33
11. 児童センター事業…………… 36
12. 学校・家庭・地域連携協力推進事業…………… 37

VIII. 文化財

1. 令和2年度の施策の重点…………… 38
2. 文化財保護…………… 38

IX. 社会教育施設

1. 三島市民生涯学習センター…………… 47
2. 図書館…………… 50
3. 公民館…………… 52
 - (1) 中郷公民館…………… 53
 - (2) 坂公民館…………… 54
 - (3) 北上公民館…………… 54
 - (4) 錦田公民館…………… 56
4. 箱根の里…………… 58
5. 郷土資料館…………… 61

I 市政のあらまし

1 位置・地勢・人口

(1) 市役所の位置

東 経	138度55分
北 緯	35度06分
標 高	24.9m

(2) 地 勢

東 西	11.107km
南 北	13.242km
面 積	62.02km ²

(3) 人 口 (令和2年4月30日現在)

男	53,406人
女	55,850人
計	109,256人
世帯数	49,495世帯

(人口、世帯数には外国人を含む)

2 沿 革

箱根西麓に位置する三島市は、気候・風土など自然条件に恵まれていることから、市内の各所で縄文・弥生文化の遺跡を見ることができ、約4千年前の縄文式住居跡や、さらに約2万7千年前(旧石器時代)の石器も発見されており、古代から人々の生活に適した所であったと言える。

天武天皇の飛鳥時代(680年)に伊豆国の国府が置かれ、奈良時代天平年間には国分寺・国分尼寺が建立されるなど、三島はこの地方の行政・教育文化・交通の要衝の地であったことがうかがえる。

源頼朝が、挙兵(1180年)に際し戦勝祈願をしたことで有名な三嶋大社は、鎌倉・室町時代、武家の崇敬篤く、また庶民の信仰をあつめたことで知られている。

戦国時代末期に築城された山中城は、秀吉の小田原攻めの際(1590年)に落城、現在は国指定の史跡公園として整備されている。

徳川時代には幕府直轄の天領となり、170年間三島に代官所が置かれていた。東海道とともに繁栄した三島宿は、品川・桑名と並んで五十三次の中でも大きな宿場の一つであり、最盛期には78軒の旅籠を数えた。さらに門前町としての性格もあって往時は繁華を極めたという。

幕末の頃、三島には十数校の漢学塾と相当数の寺子屋があった。明治5年(1872年)に学制が施行されると2校の小学校が設置され、翌6年(1873年)には現在の市域で6校を数えるに至ったことは、住民の伝統的な向学心の証であろう。

明治19年(1886年)には君沢田方郡役所が置かれ、明治22年(1889年)市町村制の施行により三島町となり、同22年(1889年)、県下で最初の公立幼稚園が三島・静岡・掛川に開園した。

大正4年(1915年)3月、三島町立図書館開館。大正

8年(1919年)から9年(1920年)に野戦重砲兵連隊が横須賀及び和歌山から三島に移転し、昭和9年(1934年)丹那トンネルが開通して三島駅が設置されると、宿場の疲弊により一時沈滞していた街にも活気が戻った。

昭和10年(1935年)北上村を編入し、昭和16年(1941年)には錦田村と合併して三島市が誕生した。昭和29年(1954年)には中郷村を編入して総面積62.13km²の市域となり、現在に至っている。

昭和32年(1957年)米国カリフォルニア州のパサディナ市と、全国で4番目の姉妹都市縁組を結び、国際化時代の先達として着実な交流を続けている。

昭和39年(1964年)三島・沼津地域に計画された石油化学コンビナートの進出を阻止。昭和44年(1969年)新幹線三島駅の開業等による経済圏・生活圏の拡大と相まって人口が急増、さらに、新幹線ひかり号の停車や、平成21年(2009年)7月の東駿河湾環状線一部供用開始、首都圏への直通高速バスの運行開始により、伊豆・北駿の玄関口、交通の結節点として、県東部の中核的都市として発展を続けている。

平成3年(1991年)4月、市制施行50周年を迎え、ニュージーランドのニュープリマス市との姉妹都市縁組を結び、さらに平成9年(1997年)5月には、かねて交流を重ねてきた中国浙江省麗水市と友好都市縁組を結んだ。

平成28年(2016年)4月には市制75周年を迎え、現在市内には、幼・小・中・高校のほか、大学院大学でもある国立遺伝学研究所をはじめ、日本大学国際関係学部・短期大学部、順天堂大学保健看護学部、放送大学静岡学習センター、佐野美術館等多くの教育文化施設が設置され、市民文化会館や市民生涯学習センターを教養文化の拠点として、せせらぎと緑と元気あふれる協働のまちづくりを目指している。

3 財政

令和2年度一般会計歳入歳出予算（当初）

（単位：千円）

（単位：千円）

歳入	
費目	予算額
市税	17,878,266
地方譲与税	257,001
利子割交付金	30,000
配当割交付金	80,000
株式等譲渡所得割交付金	85,000
法人事業税交付金	100,000
地方消費税交付金	2,660,000
ゴルフ場利用税交付金	50,000
自動車取得税交付金	1
環境性能割交付金	95,000
地方特例交付金	100,000
地方交付税	1,250,000
交通安全対策特別交付金	25,000
分担金及び負担金	164,598
使用料及び手数料	641,709
国庫支出金	5,772,518
県支出金	2,751,470
財産収入	94,984
寄附金	1,246,509
繰入金	578,698
繰越金	300,000
諸収入	622,946
市債	3,266,300
歳入合計	38,050,000

歳出	
費目	予算額
議会費	264,170
総務費	3,482,397
民生費	13,164,923
衛生費	4,620,523
労働費	38,291
農林費	367,109
商工費	1,576,252
土木費	4,551,219
消防費	1,736,946
教育費	4,652,846
災害復旧費	42,986
公債費	3,522,338
予備費	30,000
歳出合計	38,050,000

